

平成 25 年度 事業報告書

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 地球学校

I. 総括

認定NPO法人になって一年が過ぎました。外部の方とのやりとりでも【認定】という二文字の持つ信用力を肌で感じています。そんな中で実現した外国人児童生徒への支援事業（以下、地球っ子教室）の「漢字王決定戦」のゲームアプリ化は、25年度最大の成果でした。これは、神奈川県主催「企業とNPOのパートナーシップ支援事業」により実現したものです。株式会社計装エンジニアリングの協力により、平成26年3月末には無料版がGoogleplayに並びました。この取り組みは、地球っ子教室担当者と広報担当者がタッグを組んだスタッフ内の寄附促進プロジェクト・チームの結果でもあり、広報活動としても意義あることでした。スタッフ内の他のプロジェクトであるNPO新会計基準チーム、会員管理新システム化チームの取り組みも、それぞれ着実に前進しています。

このような中での当期の収支は若干の赤字となりましたが、収入全体は大幅増収、さらに支出内容も従来に比べ、前向きな先行投資が多く、将来の収益源として期待されます。

NPO法人になって13年目となる25年度は、いつも以上に出会いの多い年になりました。この出会いがさらなる次の結果へと結びつくことを確信しています。

II. 事業の成果

日本語教室に関する事業では、過去の二カ年に比べ、総時間数、総学習者数のいずれも上回りました。3月末の在籍者33人のうち2年以上の長期在籍者は5人、初級会話のためのグループレッスンが7組19人、日本語能力試験対策とビジネス会話が9人となっています。25年度も、英語教師やインド系IT技術者のクチコミで学習者が増えました。この評判を維持していくために、3つのプロジェクトチームでブラッシュアップを図り、その成果を次年度につなげていきます。

外国人児童生徒への支援事業（地球っ子教室）では、4月から日本郵便株式会社の助成を受けての漢字教材作成事業、8月からは文化庁の委託を受けて従来通りの教室、研修・日本語教材作成の事業を行いました。25年度の講座は生活者としての外国人に学ぶというテーマでしたので、第6回では教室を卒業し大学生となった地球っ子達の話の聞きました。来日直後の子ども達のことを思うと、その成長ぶりに目を見張りました。教室の特徴としては、年度後半から小学生の人数が中学生を大きく上回ってきたことです。そのほかには、神奈川県企業とNPOを結び付ける事業の一環としてアプリ版の「漢字王決定戦」も平成26年3月末に公開されました。

多文化交流に関する事業は、独自のイベントの開催はありませんでしたが、各教室とも大人数が参加するイベントが行われ、交流を深めました。日本語教室では10名以上が参加した「会話サロン」を2回、地球っ子教室では20名近くが参加した「漢字王決定戦」を2回実施しました。

Ⅲ 事業内容

1. 日本語教室に関する事業

- ・内容 日本語上達を希望する学習者への日本語指導、日本語学習支援
- ・日時 通年 約 740 回
- ・場所 かながわ県民活動サポートセンター、教室及びフリースペース
企業の会議室、横浜市市民活動支援センター、地球市民かながわプラザ
- ・従事員人員 日本語教師資格を有する正会員 約 25 名
- ・受益対象者 日本語学習を希望する母語が日本語でない学習者 約 30 名
- ・支出額 2, 200, 925 円

2. 外国人児童生徒への支援事業（地球っ子教室）

- ・内容 外国人児童生徒への日本語指導、教科の学習支援
日本語教材作成 公開研修講座の開催等
- ・日時 通年 1 1 3 回
- ・場所 かながわ県民サポートセンターの会議室及びフリースペース
地球市民かながわプラザの事務室・研修室
横浜市なかラウンジ、みなみラウンジ等
- ・従事者人員 会員、サポーター(一般、大学生) 外部有識者、 外部講師
発表者、イラスト作成協力者、教材作成協力者 5 7 名
- ・受益対象者 出席者 2 6 3 名 及び不特定多数(インターネット公開教材アクセス者)
- ・支出額 3, 248, 007 円

3. 多文化交流に関する事業

- ・内容 会員の交流、学習者との交流
- ・日時 通年 全 4 回
- ・場所 地球市民かながわプラザ、外部の開催場所、
かながわ県民活動サポートセンター 教室
- ・従事者人員 担当スタッフ 2 名
- ・受益対象者 会員、各教室の学習者・外国人児童・生徒、外部者 90 名
- ・支出額 24, 000 円